

1920年代における韓国の宗教事情

文 慶喆*

Korean religion circumstances in 1920's

MOON Kyungchol

1. はじめに

韓国は世界の中でもキリスト教の信者が占める割合が非常に高いと言われている。最新の調査によると、「プロテスタント」が国民の約20%、「カトリック」が国民の約10%で、合わせると国民の約三分の一がキリスト教の信者になる¹⁾。これは韓国で約二千年の歴史を持っている仏教信者の約23%を超える数値である。韓国のキリスト教信者数は約1400万人に上り、アジアの国の中でも第五番目にあたり、また全人口数で占める割合としては第三番目にあたる。このような量的な面だけでなく、今になっては世界に派遣されている韓国人宣教師の数は約二万七千人²⁾を超えているという報告もある。宣教師が活動しているのは156カ国に達し、その宣教師の数ではアメリカに次ぎ世界第二番目にあたる。

しかし、韓国にキリスト教が伝来したのは近代になってからである。韓国にキリスト教が伝来するまでの既成宗教は仏教であった。仏教もキリスト教

* 東北文化学園大学総合政策学部教授

1) 日本のキリスト教人口は総人口の約1%とされている。

2) 韓国世界宣教協会(KWMA)2016年報告書

も韓国本来の宗教ではなく、外部から伝来したものであるが、その伝来した時期はかなりの差がある。仏教は紀元前六世紀頃古代インドから始まったとされていて、現存する一番古い宗教の一つである。この仏教が朝鮮半島に伝来するのは一世紀頃とされている。その後、朝鮮半島では古代国家体制に入った三国時代に積極的に導入することになる。最初は外来宗教という観点から迫害の時期もあったが、三国の中では高句麗が一番早く、372年に国家公認となる。続いて、百済では東晋からインド僧「摩羅難陀」が来て、384年に国家公認となる。三国の中では地理的に中国から一番遠いこともあって中国との交流が遅れた新羅が「異次頓」の殉教を通じてやっと527年に国家公認となる。三国時代から定着した仏教は統一新羅時代に発展し、その後、高麗時代においては仏教が「国教」として繁栄を極めることになる。

また、この時期に百済から日本に仏教が伝えられたとされている。百済の第二十六代「聖王」から欽明13年に第一次、欽明27年に第二次に渡って日本に仏教が伝えられた。

このように仏教が朝鮮半島から日本に伝わったのに対して、韓国人がキリスト教を初めて接する機会は日本からであった。日本にキリスト教が伝来するのはイエズス会宣教師「フランシスコ・ザビエル」が1549年8月15日、九州の鹿児島に上陸することから始まる。日本に上陸したキリスト教が文献によると、1593年文禄・慶長の役にキリシタン大名として知られている「小西行長」と同行したイエズス会司祭「グレゴリオ・デ・セスベデス」が朝鮮半島に渡ったのが韓国におけるキリスト教との最初の接触とされている。しかし、これはキリスト教の布教とは関係がないので、本格的なキリスト教の伝来はそのずっと後の十八世紀末になる。この時期は韓国の激動の変革期であった。政治や経済は疲弊し、従来からの身分制度も崩れかけていた。このような社会情勢の中で、中国の朝貢使節に同行して北京に行ったときにキリスト教の書籍『天主実義』を手に入れることになる。これをきっかけにマテオ・リッチが北京に創設したイエズス会が朝鮮の朝貢使節の人に「西学」を教えた。この「西学」はキリスト教の教理を最初是这样呼んでいた。この朝貢使節に同行していた「李承薫」³⁾は1784年北京でグラモン (Gramont) 神父⁴⁾から洗礼を受け、朝鮮人初のキリスト教の信者となった。その後、『天主実義』を持ち帰り、若手の学者を中心に、これを研究するグループが現れ、自然に信仰共同体が

形成されることになる。朝鮮人による初のキリスト教礼拝所は、北京で洗礼を受けた李承薫によって韓国北部の平壤に創られた。真の意味での韓国のキリスト教の歴史は、この李承薫から始まるのである。外国人の宣教師によるものではなく、朝鮮人によって自発的に創られた歴史は韓国キリスト教において重要な意味を持つことになる。しかし、これはあくまでもきっかけに過ぎない。最初はキリスト教と言っても「カトリック」⁵⁾が中心だったが、世界情勢の急激な変化と西欧のアジア進出と重なって、「プロテスタント」が波のように押し寄せてきた。

カトリックはフランスの宣教師が中心だったが、プロテスタントになるとアメリカの宣教師が中心となる。1884年、アメリカの長老派とメソジスト派の宣教師が朝鮮に派遣され、定住した宣教師の朝鮮布教活動が始まる。最初の布教は教育活動であった。長老派は1885年に「培材学堂」を設立、メソジスト派は1886年に「梨花学堂」を設立した。「培材学堂」⁶⁾は少年教育、「梨花学堂」⁷⁾は朝鮮では差別を受けて教育に恵まれていなかった女性教育に力を注いだ。

その後、韓国のキリスト教は「カトリック」、「プロテスタント」共に世界史上類のない成長を遂げ、教勢を拡大していた。この原因になるものは朝鮮戦争後の混乱と貧困の時代だけではなく、遡ると近代の1900年代からその兆候が見られるのである。本稿では近代における韓国の宗教事情とキリスト教の実情について考察してみる。

2. 近代における韓国の宗教事情

韓国の既成宗教は、言うまでもなく「仏教」である。歴史も長く、三国時代は勿論、高麗時代においては「国教」として尊重されていた。朝鮮時代に入ると状況が変化し「儒教」が国家理念となり、また「崇儒抑佛」政策により仏教

3) 1783年、朝貢使節「冬至使」の書状官として参加した父に連れられ北京に行き、四十日間滞在した。その後、李承薫は殉教者となり、また四代にわたって殉教者を出している。

4) 北京天主堂のフランス人司祭

5) 韓国ではプロテスタントのキリスト教と区別して、「天主教」と呼んでいる。

6) 「培材学堂」は今の培材高校、培材大学に引き継がれている。

7) 「梨花学堂」は今の梨花女子大学等に引き継がれている。

鍛冶もあったが、王室や民間の信仰対象としては健在であった。また、歴史も長く伝統的な宗教であるため、寺刹の数や僧侶も多く存在した。勿論、時代の推移とも共に仏教の衰えが見え、昭和元年(1926年)では、次のような教勢であった。

【表 1】昭和元年(1926年十一月末現在)の韓国仏教の教勢

地域 \ 寺刹 僧侶数	寺 刹	僧	尼 僧	僧侶の総数
京畿道 ⁸⁾	183	960	203	1163
忠清北道	39	132	53	185
忠清南道	102	449	126	575
全羅北道	115	207	7	214
全羅南道	138	843	85	928
慶尚北道	195	922	20	942
慶尚南道 ⁹⁾	174	1323	143	1466
黄海道	49	270	17	287
平安南道	40	43	3	46
平安北道	105	116	5	121
江原道	125	735	78	813
咸鏡南道	79	284	124	408
咸鏡北道	23	40	1	41
計	1363	6324	865	7189

しかし、この数値だけでも少なくはないが、これはあくまでも宗教法によって登録されている数であり、登録されていない数を考えると、これより遥かに多いことが予想される。この調査は、1926年(昭和元年)に行われたものであり、1911(明治44)年6月3日に制定・公布された「寺刹令及び同令施行規則」¹⁰⁾の影響がかなり反映されていると考えられる。

8) 京畿道には今のソウル特別市(当時の名は「京城」)も含む。

9) 慶尚南道にはいまの釜山広域市も含む。

10) 「寺刹令及び同令施行規則」によって朝鮮の伝統的な仏教が、宗派を統一して「禪教兩宗」とし日本仏教化が進んでいく。

【表2】大正から昭和にかけての韓国仏教の僧侶の数の推移

年 度	僧	尼 僧	総 数
大正 4年 [1915年]	8247	?	?
大正 5年 [1916年]	8340	?	8340
大正 6年 [1917年]	6776	1350	8126
大正 7年 [1918年]	6686	1275	7961
大正 8年 [1919年]	6454	1196	7650
大正 9年 [1920年]	6337	1239	7576
大正10年 [1921年]	6240	1305	7545
大正11年 [1922年]	6081	1134	7215
大正12年 [1923年]	6024	1196	7220
大正13年 [1924年]	5944	1206	7150
大正14年 [1925年]	6133	869	7002
昭和元年 [1926年]	6324	864	7188

【表2】を見ても大正から昭和元年にかけて僧侶の数の減少傾向が著しく見られる。

また、古代からの韓国の伝統的仏教に対して、近代における日本仏教の進出である。日本仏教の朝鮮進出の始まりは1877年、浄土真宗大谷派、東本願寺派が釜山に東本願寺別院の設立である。その後、奥村圓心、平野惠粹等を派遣し、港を中心に勢力を広げた。最初は、朝鮮人救済事業にも乗り出して布教活動を行う。しかし、日本仏教は日本人の移住者の増加により急速に拡大したが、それは【表3】のように、日本人187,192名に対して、朝鮮人は一万人を満たなかった。

また、日本仏教の布教により「僧侶都城出入禁止」という従来僧侶がソウルの都城に出入りできなかったことが解禁となった。

日本仏教の影響は、この時期から日本仏教を学びに日本に渡る「留学僧」も増え始めた。これは後に、韓国仏教が日本仏教化する原動力になる。

【表3】昭和元年（1926年十一月末現在）の日本仏教の信者数

地域 \ 出身別	日本人 (内地人)	朝鮮人 (韓国人)	外国人
京畿道	50593	5823	10
忠清北道	3814	42	0
忠清南道	10503	82	0
全羅北道	11790	398	0
全羅南道	12577	116	0
慶尚北道	16494	399	0
慶尚南道	35637	582	0
黄海道	7392	261	0
平安南道	14877	310	0
平安北道	5400	2	10
江原道	1976	30	0
咸鏡南道	6637	58	0
咸鏡北道	9502	617	0
計	187192	8721	20

1911年まで浄土真宗本願寺派、大谷派、浄土宗、曹洞宗、古義真言宗、日蓮宗の六宗派が設立した別院または布教所は167に上った。その後、【表4】は宗派別の信者数である。

【表4】昭和元年（1926年十一月末現在）日本仏教の宗派別信者数

宗 派	信 者 数
浄土真宗本願寺派	65232
浄土真宗大谷派	25936
浄土宗	22276
曹洞宗	26357
古義真言宗	14015
日蓮宗	12628

日本仏教は伝統的な韓国仏教と違い、独特の檀家制度¹¹⁾があり、日本人移住者の殆どは檀家に入られたと考えられる。その中で、日本仏教が韓国に入ってから50年の間、9000人近くの信者ができ、また韓国伝統仏教にも大きな影響を与えることになる。

また、日本仏教と共に日本古来の神道も韓国に入る。1919年以降1932年までには全国各所に51余りの神社もお建てられていた。その後、神社参拝を巡ってキリスト教と軋轢が生じることになる。

このような状況の中で、一方では外来宗教としてキリスト教が深く根を下ろすことになる¹²⁾。最初は日本のキリスト教教団による開拓もあったが、徐々に西洋からの宣教師が増え、宗教自由化政策と相まって勢力を拡大して行く。1926年(昭和元年)における外国人宣教師の数は、次のようになる。

アメリカ：314名(男：175名、女：139名)

イギリス：93名(男：62名、女：31名)

フランス：46名¹³⁾(男：46名、女：0名)

ドイツ：11名(男：11名、女：0名)

しかし、この時期の韓国は大きな変革期に入り、元々存在しなかった¹⁴⁾韓国自生の類似宗教が急速に勢力を伸ばすことになる。勿論この時代まで韓国では、外来宗教以外にはシャマニズムを除いた土着宗教は存在しなかった。寧ろ朝鮮時代には「儒教」文化が強く、すべての生活規範であった。このような儒教社会にキリスト教(西学)が入るのと同時に、それに対抗する東学を中心とした土着の類似宗教がまるで彗星のように現れる。この激動の時期に中国では「太平天国の乱」¹⁵⁾があり、その情報は朝鮮にも色々な経路を通じて伝わったと考えられる。太平天国の乱は朝鮮にも大きな衝撃を与え、性格は

11) 「檀家制度」は寺院が檀家の葬祭供養を独占的に執り行なうことを条件に結ばれた、寺と檀家の関係をいう。

12) 日本キリスト教団の朝鮮進出は、1905年「日本組合教会」の設立から始まる。

13) フランスは、救世軍1名を除いて全員カトリック、ドイツも全員カトリック。

14) 韓国土着宗教は、シャマニズム即ち巫俗信仰である。

15) 清朝の中国で、キリストの弟と自称した洪秀全によって、1851年に起こった大規模な反乱。14年間続いた。

異なるものの、その後起きた「東学の乱」¹⁶⁾にも何らかの影響を及ぼした可能性がある。

韓国の類似宗教は、朝鮮総督府の調査で次のような団体に分けられている。

【表5】近代における韓国の類似宗教団体

①	東学系類似宗教団体
②	吡哆系類似宗教団体
③	佛教系類似宗教団体
④	崇神系類似宗教団体
⑤	儒教系類似宗教団体
⑥	系統不明の類似宗教団体

この名前は当時の調査時の名前であり、いまは使われなかったり、名前が変わったりするものもあるが、中身は殆ど変わらない。そもそも宗教の出現にはそれを促す社会的環境がある。激動の時代においては既成の宗教に失望し、頼れる新しい宗教を求める傾向がある。最初に旗を挙げたのは東学系類似宗教団体の中心である「天道教」であった。キリスト教の「西学」に対抗して「東学」を名乗った。しかし、この東学農民革命運動は、かなりの勢力を持ち、腐敗した王権に立ち向かったが、外勢の介入等により失敗してしまう。その後、色々な宗派に分裂していく。この東学に代わって勢力を拡大したのが、吡哆系類似宗教団体の代表である「普天教」である。普天教の最盛期には、信者数が700万人に達したと宣伝した。この700万人の信者数はどのくらい信憑性があるか不明だが、その本部のある全羅北道井邑大興里には大勢の訪問者で特急列車が停まるほどであり、その本部の建物は豪華絢爛で相当の規模¹⁷⁾であったと伝えられる。

近代における韓国は、既成宗教と新興宗教、外来宗教と土着宗教が入り交じり、正に宗教の坩堝になっていた。その中で、キリスト教はどのような位置を占めていたかを検証する。

16) 1894年朝鮮で起きた、農民による革命運動。全瑋準が率いた。日本の関与により鎮圧された。

17) 普天教本部の建物はソウルに移築し、その後韓国仏教最大の教派である曹溪宗本寺の本殿になっている。

3. 近代韓国におけるキリスト教の位置について

近代において韓国では、韓国古来の仏教に加え、日本からの仏教、神道が入り、その上に西洋からのキリスト教が短期間で急速に拡大し、既存の宗教と肩を並べるようになる。ただ、1926年（昭和元年）の調査では既存の宗教とは言え、神道、朝鮮仏教、日本仏教、キリスト教しかなく、宗教人口の比率は非常に低い結果となっている。もし、儒教¹⁸⁾（儒教が宗教かどうかは議論の余地はあるが）という項目があったら多くの韓国人はそちらを選んだかもしれない。また、東学を初めてとする新興宗教は、類似宗教としてこの調査の項目から漏れている。

その結果、1926年の段階で韓国人だけのキリスト教の信者数が既成の宗教を抑えて第一位になっているのは驚きである。また、日本人を合わせると、宗教の比率が高いのは港があって外部との接触が多い所か、日本人が多く居住している地域であることが伺える。神道の信者数が京畿道に次ぎ慶尚南道に多いのも釜山に日本人が多く居住しているからだと考えられる。宗教人口の比率が、8.4%の京畿道が一位、6.2%の慶尚南道が二位となっているからである。

また、朝鮮仏教は、朝鮮半島の西の地域より、京畿を除いては東の方が多いのが特徴の一つである。信者数とは反対に、寺刹の数は朝鮮半島の東より西の方が多く特徴がある。

地域的なバラつきは神道、朝鮮仏教、日本仏教に共通して観られるのに対して、キリスト教はソウルのある京畿道を除いて割と均等であることが分かる。

次の【表6】は、昭和元年（1926年）韓国において「神道」、「日本仏教」、「韓国仏教」、「基督教」の四つの宗派に分けて、その信徒数を各道別に分けた人数と比率である。

18) 最新の調査では、儒教と答えたのが0.2%に過ぎない。

【表6】昭和元年(1926年十一月末現在)におけるキリスト教と他の既成宗教との信徒数比較¹⁹⁾

地域\区分	人口	信 徒 数				計	人 口 百分率
		神 道	日本仏教	朝鮮仏教	基督教		
京畿道	1948953	31331	56416	17528	57669	162954	8.4
忠清北道	826700	819	3856	4092	10439	19202	2.3
忠清南道	1249054	3191	10586	4600	18762	37139	3.0
全羅北道	1350067	5463	12188	2484	23992	44127	3.3
全羅南道	2128280	3293	12693	11004	11818	38808	1.8
慶尚北道	2294862	4955	16893	40440	33416	95704	4.2
慶尚南道	1960532	22045	36219	61502	23782	121502	6.2
黄海道	1417422	1158	7653	1713	33720	44244	3.1
平安南道	1245934	4349	15187	913	37441	57890	4.6
平安北道	1394222	1569	5412	4229	15313	26523	1.9
江原道	1307145	168	2006	4970	17811	24955	1.9
咸鏡南道	1361006	4615	6695	10549	10984	32843	2.4
咸鏡北道	619727	2248	10119	2864	3888	19119	3.1
計	19103904	85204	195933	170354	299564	751055	3.9

これを宗教別の割合を表にすると、次の【表7】のようになる。

【表7】昭和元年(1926年十一月末現在)における教派別の信徒数の割合

教 派	信 徒 数	百 分 率
神 道	85204	0.44
日 本 仏 教	195933	1.02
朝 鮮 仏 教	170354	0.88
基 督 教	299564	1.56
総 計	751059	3.93

19) この【表】以来の統計は1926年(昭和元年)朝鮮総督府学務局宗教課が作成したものである。

この四つの中では、キリスト教が1.56で第一位、日本仏教²⁰⁾が1.02で第二位であるが、伝統的な朝鮮仏教は0.88で第三位に止まっている。

このように短期間で急速に成長したキリスト教の教会を教派別、地域別にみると次の【表8】のようになる。

【表8】昭和元年(1926年十一月末現在)におけるキリスト教教会の教派別、地域別の数

教派 道名	天主教教会	朝鮮耶蘇教長老会	美監理教会	聖公会	南監理教会	露国正教会	日本基督教会	日本メソヂスト教会	日本組合基督教会	第七安息日教会	東洋宣教会	救世軍	朝鮮基督教会	東洋宣教会ホーリネス	朝鮮会衆基督教会	総計
京畿	36	68	182	31	112	6	2	3	1	4	12	28	1	1	4	491
忠北	6	63	29	14	0	0	0	0	1	0	1	18	0	0	1	133
忠南	15	30	72	10	0	0	0	2	2	3	8	23	0	0	5	170
全北	15	194	0	1	0	0	3	0	0	2	1	13	0	0	5	234
全南	3	288	0	0	0	0	3	0	0	6	1	0	0	1	1	303
慶北	21	373	0	1	0	0	2	1	1	5	6	41	0	0	1	451
慶南	20	218	0	1	0	0	4	1	0	4	9	0	0	2	0	259
黄海	48	240	94	6	62	0	0	4	0	7	1	19	1	0	1	483
平南	23	253	77	1	0	0	1	2	1	30	1	0	0	0	1	390
平北	5	283	20	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	312
江原	27	0	32	0	184	0	0	0	1	4	2	0	0	0	2	252
咸南	2	110	0	0	13	0	0	2	0	4	7	5	0	0	0	143
咸北	2	36	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	43
計	223	2155	506	65	371	6	16	17	7	71	50	147	3	4	23	3664

この【表8】を見ると、教派では「朝鮮耶蘇教長老会」2155教会で一番多く、「美監理教会」が506教会で二番目、「南監理教会」は371教会で、韓国中部地方を中心とした地域的な偏りはあるものの三番目になっている。この三教派

20) 日本人だけを見ると、日本仏教が一番目になっている。

が全体の八割以上を占めている。

このようなプロテスタント教会に対して、伝統的なカトリックの天主教教会は223教会で、全体の四番目を占めていて、かなりの影響力を維持している。

地域的にはソウルのある京畿道は491教会で一番目であるが、二番目には483教会の黄海道が、三番目には451教会の慶尚北道が占めている。教派別では、朝鮮耶蘇教長老会は京畿道では68教会で少なく、美監理教会は全国的には二番目であるが、京畿道では182教会で一番目になっている。

【表9】昭和元年(1926年十一月末現在)におけるキリスト教教会の布教者数

教派 道名	天主教教会	朝鮮耶蘇教長老会	美監理教会	聖公会	南監理教会	露国正教会	日本基督教会	日本メソヂスト教会	日本組合基督教会	第七安息日教会	東洋宣教会	救世軍	朝鮮基督教会	東洋宣教会ホーリネス	朝鮮会衆基督教会	総計
京畿	34	123	239	34	59	4	3	6	2	5	21	28	2	1	12	573
忠北	2	15	22	14	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	1	65
忠南	9	15	68	10	0	0	0	0	0	1	22	17	0	0	5	138
全北	8	219	0	1	0	0	2	0	0	0	0	12	0	0	5	247
全南	5	113	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	1	1	125
慶北	19	72	0	2	0	0	1	1	1	3	13	37	0	0	1	150
慶南	8	46	0	1	0	0	1	1	0	1	15	0	0	1	0	74
黄海	9	83	72	5	12	0	0	2	1	1	3	12	1	0	1	202
平南	12	203	131	2	0	0	1	3	0	16	3	0	0	0	1	372
平北	5	186	21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5	219
江原	11	0	43	0	56	0	0	0	0	1	3	0	0	0	2	116
咸南	3	47	0	0	10	0	0	2	0	2	11	5	0	0	0	80
咸北	2	24	0	0	0	0	0	1	0	2	3	0	0	0	0	32
計	127	1146	596	69	137	4	11	16	4	34	87	121	4	3	34	2393

布教者の数も京畿道が573名で一番目であるが、二番目には372名の平安南道、三番目には247名の全羅北道となっている。教会の数で二番目の黄海道は、布教者の数では202名で五番目になっている。また、教会の数で三番目の慶尚北道も布教者の数では150名で六番目である。

【表 10】昭和元年(1926年十一月末現在)におけるキリスト教の教派別、地域別の信徒数

教派 道名	天主教教会	朝鮮耶蘇教長老会	美監理教会	聖公会	南監理教会	露国正教会	日本基督教会	日本メソヂスト教会	日本組合基督教会	第七安息日教会	東洋宣教会	救世軍	朝鮮基督教会	東洋宣教会ホーリネス	朝鮮会衆基督教会	総計
京畿	20,323	5,491	15,079	3,066	6,751	598	652	515	666	184	1885	1559	96	29	775	57,669
忠北	3,561	2,706	1,955	1,002	0	0	0	0	11	0	58	1,031	0	0	110	10,435
忠南	10,309	694	4,623	580	0	0	0	33	62	40	817	1,284	0	0	320	18,762
全北	13,636	9,187	0	27	0	0	234	0	0	17	10	613	0	0	478	24,202
全南	1,388	10,370	0	0	0	0	146	0	0	86	39	0	0	27	85	12,141
慶北	9,419	20,415	0	51	0	0	100	76	96	102	688	2,444	0	0	55	33,416
慶南	9,279	13,182	0	88	0	0	227	147	0	67	736	0	0	38	0	23,782
黄海	7,121	17,778	4,037	324	1,962	0	0	119	0	91	108	1,087	1,043	0	50	33,720
平南	4,772	21,489	9,317	212	0	0	43	282	108	932	131	0	0	0	135	37,441
平北	936	11,356	1,862	0	0	0	127	0	0	0	0	0	32	0	1,000	15,313
江原	8,299	0	2,064	0	7,192	0	0	0	11	55	129	0	0	0	61	17,811
咸南	1,152	7,745	0	0	561	0	0	135	0	96	934	361	0	0	0	10,984
咸北	342	3,396	0	0	0	0	0	53	0	15	82	0	0	0	0	3,888
計	90,553	123,809	38,937	5,351	16,466	598	1,529	1,360	924	1,705	5,617	8,379	1,171	94	3,069	299,364

信徒数では、朝鮮耶蘇教長老会が123,809名で一番目、美監理教会が38,937名で三番目、南監理教会が16,466名で四番目であるが、カトリックの天主教教会が90,553名で二番目を占めている。しかも、京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、江原道では天主教教会が信徒数一番目を占めている。それに対して、朝鮮耶蘇教長老会は全羅南道、慶尚北道、慶尚南道、黄海道、平安南道、平安北道、咸鏡南道、咸鏡北道で一番目となっている。南監理教会は、京畿道では朝鮮耶蘇教長老会の約三倍(5,491名対15,079名)、忠清南道では朝鮮耶蘇教長老会の約6.5倍(5,491名対15,079名)を見せている。地域的な偏りはあるものの「救世軍」²¹⁾が五番目で、現在にもその勢力が引き継がれている。

21) イギリスに本部を置き、現在、世界128の国と地域で活動する国際的なキリスト教(プロテスタント)の団体で、韓国には1908年日本を通じて入ったとされている。

救世軍のブース大將は1907年4月に日本に来て6週間滞在し、宣教を始めた。当時東京には韓国人留学生が800名位いて、その代表三名がブース大將に韓国宣教を要請し、これが韓国宣教の切っ掛けとなったと言われている。

信徒数ではアメリカから入った教派が積極的な宣教活動と共に近代医療や教育事業を通じて勢力を拡大して行った。これに対して、日本のキリスト教団（日本基督教会など）も韓国宣教に積極的に乗り出したが、その影響力は大きくはなかった。例えば、日本メソヂスト教会は1900年代初めソウルに日本人居住者が増え、その宣教を目的に1904年5月14日に朝鮮に派遣された「木原外七」から始まる。

このような観点から、次は信徒の出身別をみる。

【表11】昭和元年（1926年十一月末現在）におけるキリスト教信徒の出身別

教派 出身区分	天主教教会	朝鮮耶蘇教長老会	美監理教会	聖公会	南監理教会	露国正教会	日本基督教会	日本メソヂスト教会	日本組合基督教会	第七安息日教会	東洋宣教会	救世軍	朝鮮基督教会	東洋宣教会ホーリネス	朝鮮会衆基督教会	総計
日本人	1,079	2	0	427	0	0	1,529	1,360	919	0	1	455	0	92	0	5,864
朝鮮人	89,400	123,730	38,937	4,914	16,450	594	0	0	3	1,680	5,616	7,904	1,171	2	3,069	293,470
外国人	76	77	0	10	16	4	0	0	2	25	0	20	0	0	5	230
計	90,555	123,809	38,937	5,351	16,466	598	1,529	1,360	924	1,705	5,617	8,379	1,171	94	3,069	299,564

【表11】のように出身別に見ると、日本人のキリスト教信徒は全体的な比率で非常に少なく、仏教や神道の信徒と比べても大きな差がある。その中で、日本から派遣された「日本基督教会」、「日本メソヂスト教会」、「日本組合基督教会」に集中し、全体の8割を占めている。また、この日本から入った教団は、最初は日本人宣教が目的だったようで、朝鮮人信徒は殆ど見当たらない。逆に、当時朝鮮人の信徒が多い最大の教派朝鮮耶蘇教長老会、美監理教会、南

監理教会等には日本人信徒が殆ど見られないこともある。そのような状況の中でも、カトリックの天主教教会には、朝鮮人信徒89,400名に対して、日本人信徒が1,079名もいる。これは当時の人口比からみても高い数値とも言える。

しかし、次の【表12】のように、急激に拡大したキリスト教も時代別推移を見ると、日本人信徒の増加傾向に対して、朝鮮人信徒はピーク時の367,751名（大正11年）から昭和元年には75,000弱が減っていることである。この時代には宗教活動は自由に保証され、キリスト教弾圧とは考えにくい。同時期の日本人信徒は増えていることから推測できる。寧ろ、韓国内における何らかの社会情勢が働いたと考えられる。

【表12】大正から昭和にかけてのキリスト教信徒数の推移

年 度	日本人	朝鮮人	外国人	計
大正 4年 [1915年]	未詳	未詳	未詳	267,484
大正 5年 [1916年]	2,976	279,586	460	283,022
大正 6年 [1917年]	3,403	270,698	432	274,533
大正 7年 [1918年]	3,320	315,377	432	319,129
大正 8年 [1919年]	3,911	292,141	435	296,487
大正 9年 [1920年]	4,217	319,357	0	323,574
大正10年 [1921年]	4,577	350,537	0	355,114
大正11年 [1922年]	5,169	367,751	173	373,093
大正12年 [1923年]	5,194	358,907	151	364,252
大正13年 [1924年]	5,224	343,841	310	349,375
大正14年 [1925年]	5,620	355,283	238	361,141
昭和元年 [1926年]	5,864	293,470	230	299,564

4. 終わりに

1920年代の韓国は正に激動の時代であった。長い間続いてきた儒教の秩序は崩れかけ、また西洋から新しい思想が波のように押し寄せてきた。一部

ではこれを受け入れようとする半面、これに立ち向かって自分達の主体性を探そうとした。社会的秩序や価値観の混乱の中で、人々は新しい宗教を求めるようになった。数千年間既成の宗教であった仏教は衰退し、そこにキリスト教が入って来た。中国での前例のように、韓国における欧米の政治的な戦略にキリスト教がかかわった可能性もある。その中で、韓国の伝統仏教は衰退し²²⁾、キリスト教の教勢は急激に伸びて、この調査の限りでは宗教第一位を占めている。

その一方では、外部から入った西洋宗教に対抗して、社会改革を唱える新興宗教集団も数多く現れた。この新興宗教の最盛期は70宗派を超え、その信徒は何百万人を数えたとも言われている。ただ、1926年(昭和元年)の朝鮮総督府学務局宗教課による調査ではその項目に入っていないのでその規模については分からない。いまの調査では、韓国の半数以上が宗教をもっていると答えているが、この調査での宗教人口は調査対象四派で3.93%に過ぎない。実は、韓国で正確な人口統計を取っているのが1925年からなので、非常に敏感な事案である宗教統計は、その正確性に関しては議論の余地が十分あると考えられる。

しかし、1920年代の韓国の社会情勢を考えると、韓国の人の90%以上は本当に宗教と関わっていないか(無宗教)、この調査項目以外の宗教を持っているかの可能性は十分考えられる。実際に、1945年終戦後の北朝鮮だけでの調査で、新興宗教の一派である「天道教」(東学からの流れ)信徒が260万人、キリスト教信徒120万人とのことからもある程度推測できる。

韓国宗教人口の多さと多様性はこのような過程を経て、生まれたのである。最新の調査においても、韓国人の53%が何らかの宗教を持っていると答え、持っていないという47%を上回る。また、その中でキリスト教の人口も世界屈指を誇っている。様々な宗派から生まれた新興宗教も勢力を拡大し、韓国は正に宗教の坩堝となっている。

22) 1945年の調査では、韓国伝統仏教の僧は500人余りで、日本仏教式の帯妻僧は7000人に上っている。

参考文献

- 愛宕顯昌(1982)『韓国仏教史』 山喜房佛書林
- 青柳綱太郎(1995)『韓国併合史研究資料』⑦「韓国植民地策－朝鮮統治と基督教」復刻版
龍溪書舎
- 井門富二夫(1993)『占領と日本宗教』未来社
- 江田俊雄(1977)『朝鮮仏教史の研究』国書刊行会
- 海老沢有道(1971)『日本キリスト教史』日本基督教団出版局
- 奥平武彦(1969)「朝鮮の條約港と居留地」『朝鮮開国交渉始末』刀江書院
- 姜在彦(1970)『朝鮮近代史研究』日本評論社
- 姜在彦(1983)『日本による朝鮮支配の40年』大阪書籍
- 姜在彦(1996)『姜在彦著作集』第一卷「朝鮮の儒教と近代」明石書店
- 岸本美緒・宮嶋博史(1998)『明清と李朝の時代 「世界の歴史12」』中央公論社
- 徐正敏(2009)『日韓キリスト教関係史研究』 日本基督教団出版局
- 朝鮮総督府編(1928)『朝鮮総督府統計年報』 朝鮮総督府
- 朝鮮総督府編(1933)『朝鮮史』 朝鮮総督府
- 朝鮮総督府編(1944)『近代朝鮮史研究』 朝鮮総督府
- 朝鮮総督府編(1971)『朝鮮寺刹資料』 復刻版 国書刊行会
- 朝鮮総督府編(1972)『朝鮮の類似宗教』 復刻版 国書刊行会
- 朝鮮総督府編(1977)『朝鮮における日本人の活動に関する調査』 復刻版 湖北社
- 森山茂徳(1992)『日韓併合』 吉川弘文館
- 森山茂徳(1996)『近代日韓関係史研究』 東京大学出版会
- 山口正之(1967)『朝鮮西教史』 雄山閣
- 柳東植(1975)『韓国の宗教とキリスト教』 洋々社

